

資 料

- 君津市の授業
- 授業力アップシート
- きみつ学びのすすめ

君津市の授業

君津市教育委員会

1 はじめに

県標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果から日々の授業を大切にして、思考力・判断力・表現力を育てていくことが重要であると考えます。本市の教員は、「わかる授業、魅力ある授業」を目指して、どの教員も教科を問わず「君津市の授業」をもとに授業に臨み、授業改善に取り組んで欲しいと考えます。そこで、授業で特に大切にしなければならない8つのポイントのもと、子どもたちの学力を向上させていきましょう。



2 授業で大切にしなければならないこと

授業で大切なポイントは下記に示すものです。

- | | | | |
|-------|-------|-------|------------|
| ・学習規律 | ・実態把握 | ・教材研究 | ・学習課題、学習問題 |
| ・板書 | ・学習形態 | ・個別指導 | ・授業の振り返り |

3 授業のポイント

(1) 学習規律

子どもたちの力を授業で育てていくために、各学級で次にあげることが確実にできるように、根気よく指導して、身に付けさせましょう。

各教科共通

背筋を伸ばしたよい姿勢をする

話を聞くときは、相手を見て聞く

返事をする

発表するときには、相手に聞こえる声で話す

技能教科

道具を安全に使用する

きちんと整列する

(2) 実態把握

どんなに素晴らしい教具を用意し、授業の流れが考えられていたとしても、実態を把握していなければ、思うように授業は進みません。また、その時間で育てるべき力も伸ばせません。そこで、授業前や、授業中、授業後の子どもたちの実態を、各教科下記の方法で把握しましょう。

【算数・数学】

(授業前)

- ・ブロック操作をさせたり計算方法について叙述させたりして、問題の解き方を把握する。
- ・教科書指導書の資料集を活用し、既習事項の定着を把握する。

(授業中)

- ・授業に関連する問題を解かせ、学習内容の理解度や定着度を把握する。

【理 科】

(授業前)

- ・器具の扱い方についてアンケートをとり、安全面についての知識・理解を把握する。

(授業中)

- ・単元の導入時に自由に活動させる場を設定することで、素材に対してのどれだけの経験があるのか等を把握する。

【英 語】

(授業前)

- ・学年始めの授業で、前学年の文法事項の定着や必修単語・重要語句を確認するテストを行い、どれだけ定着しているのか把握する。

(授業中)

- ・ペアやグループ等学習形態を工夫し、新出単語や文構造の口頭練習・本文の音読練習等を行い、どれだけ理解しているのかを把握する。

【音 楽】

(授業前)

- ・音楽に関わる子どものポテンシャル（ピアノ、バイオリン、オーケストラの演奏会に行ったことがある等）を本人と相談して把握する。

(授業中)

- ・鑑賞では、初発の感想の記述内容や本人への聞き取りから実態を把握する。

【技術・家庭科】

(授業中)

- ・調理実習や作品の制作状況や感想から実態を把握する。

【図工・美術】

(授業前)

- ・色を塗らせたり、組み立てさせたりして、発達段階にあった活動が行われてきたか把握する。

(授業中)

- ・作品を制作している様子や感想から実態を把握する。

【体 育】

(授業前)

- ・脈拍や体温から自分の健康状態を把握する。
- ・単元に関わる活動をやらせてみることで、個々の実態を把握する。

(授業中)

- ・主運動を行っているときの動きや準備の様子から把握する。
- ・各種目記録の測定結果から把握する。(陸上は記録、球技ではシュートの回数等)

(3) 教材研究

子どもたちは、「今日はどんな学習をするのだろうか?」、「何を勉強するの?」と、授業でどんなことを学習するのか楽しみにしています。そのためにも、教員は、単元を通して、またはその授業1時間をどのように進めていくのかしっかりと教材研究を行う必要があります。そこで、下記に示すことを行ってから授業に臨んでみましょう。

指導計画を立てる

- ・単元全体を通して、どのようなことを学習していくのか、全体の見通しを持つ。
- ・45分または50分の授業時間の中で、どのように授業を進めていくのか見通しを立てる。
(復習の時間、自力解決の時間、自分の考えを書く時間、話し合いの時間、体験的な活動の時間、練習する時間、まとめの時間、振り返りの時間等)

書籍による研究

- ・学習する単元において、関連する書籍を読み、どのような内容の学習か理解しておく。また、実態に応じた補足説明等ができるようにしておく。

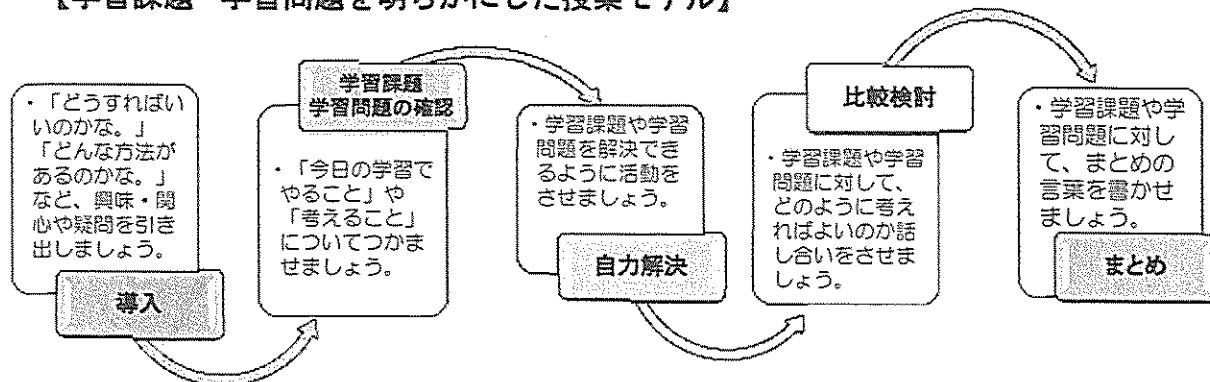
教材の作成

- ・子どもたちに興味・関心を持たせたり、思考を促したりするための教材を作成する。

(4) 学習課題・学習問題

子どもたちに授業の中で思考させたり、考えたことをもとに話し合いをさせたりするためにも、「この授業で考えること、やるべきことは何か」ということを明らかにしておく必要があります。そのため、学習課題や学習問題を自力解決や比較検討の前に明らかにし、しっかりと確認しておくことが大切です。また、授業のねらいに向けて思考を促す原動力となる発問ができるように、効果的に授業を組み立てることができるようにしましょう。

【学習課題・学習問題を明らかにした授業モデル】



【発問のポイント】

発問は、子どもたちの考えを引き出したり、変化させたり、新たな考えを導き出したりして学習活動をより活発にさせるものです。そのため、発問の働きを自覚し、使い分けることで、効果的に授業を組み立てることができるようにしましょう。

（発問で大切なこと）

- ・何を問っているのかははっきりしていること。
- ・簡潔に問うこと。
- ・発達段階に応じた分かりやすい言葉で問うこと。

〔発問の働き〕

（１）答えが１つで、「問い」「答え」的な発問

（目的）必要な情報の確認、取出し、整理などをし、考える内容を明確にする。

（例） 「この図形は何ですか」「分かっていることは何ですか」

（２）答えが複数あり、「問い」「答え」的な発問

（目的）興味・関心を高めたり、問題意識を共有化したりする。

（例） 「図を見て気付いたことは何ですか」「調べたいことは何ですか」

（３）答えが限定され、「考え方」や「妥当性」を答えさせる発問

（目的）多様な考え方を比較検討したり、妥当性を考えさせたりして、思考力や判断力、表現力を高める。

（例） 「どちらの方法が正しいといえますか」「考え方が同じものを仲間にしましょう」

（４）答えが複数あり、「考え方」や「可能性」を引き出す発問

（目的）多様な思考をさせたり、様々な考え方があることに気付かせたりして、思考力や表現力を育てる。

（例） 「いろいろな解き方を工夫してみましょう」「なぜこのようになるとおもいますか」



(5) 板書

板書は、学習の流れに沿ったものが効果的であり、学習の終わりに、思考してきたことが振り返ることができるものにしましょう。

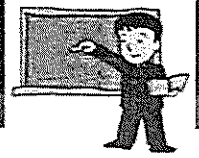
板書を見れば授業がわかる = 板書計画ができれば指導ができる

－ よい板書の条件 －

- 1 学習のわらい(課題)が明確に示されている。
- 2 授業の流れ(導入～まとめ)がわかる。
- 3 子どもの思考や発言が表現されている。
- 4 見やすく(大きさ、構成)丁寧な文字で書かれている。

よい板書は、ノートづくりへ
ノートづくりは、家庭学習へ
つながります。

月 日 () 日 直



◆ 板書が与える効果 ◆

①提示の効果・・・子どもたちに学んでいる内容を示すこと

- 学習の課題、学ぶ順序や方法を提示することにより、学習活動の見通しを持たせる効果があります。
- 子どもの発言を教員がまとめることで、子どもたちのノートづくりの見本となります。
- 子どもの意見を書くことにより、考えを広める場となります。

②明瞭の効果・・・子どもたちの意識を集中させるとともに、意識をそろえること。

③整理・保留の効果・・・子どもの思考を整理したり、思考の過程を残したりすること。

- 子どもの発言や考えを整理して書くことにより、考える場を提供することになります。いわば学級集団のノートのような位置づけです。
- 説明や指示等を書くことにより、子どもたちに提示するだけでなく、思考の隙間を補うことができます。

④構成の効果・・・後で見直したときに授業の流れ、思考の過程を振り返ることができます。

- このことは、子どもたちのノート指導から復習へとつなげることで家庭学習のつながりが生まれます。



◆ 板書のスキル ◆

①色づかい

- 基本は白。(見やすさ①黄色→②白→③赤→④青)
- 色の使い方を決める。
(例) 学習課題：青囲み まとめ：赤囲み
キーワード：黄色

③見えやすくする工夫

- 見だし、チェックポイントで色分けする。
- 子どもから見える位置に立つ。
- 机間指導の際に、後ろから板書を振り返る。
- 基本は、消さない。
→何をどう書くかがはっきりしている。
→思考の道筋がはっきりと残る。

②文字

- ていねいな楷書で書くこと。
- 教室の全員が見ることができること。
- 学年の発達段階に応じ、大きさを変えること。
※標準1文字 10cm 四方程度

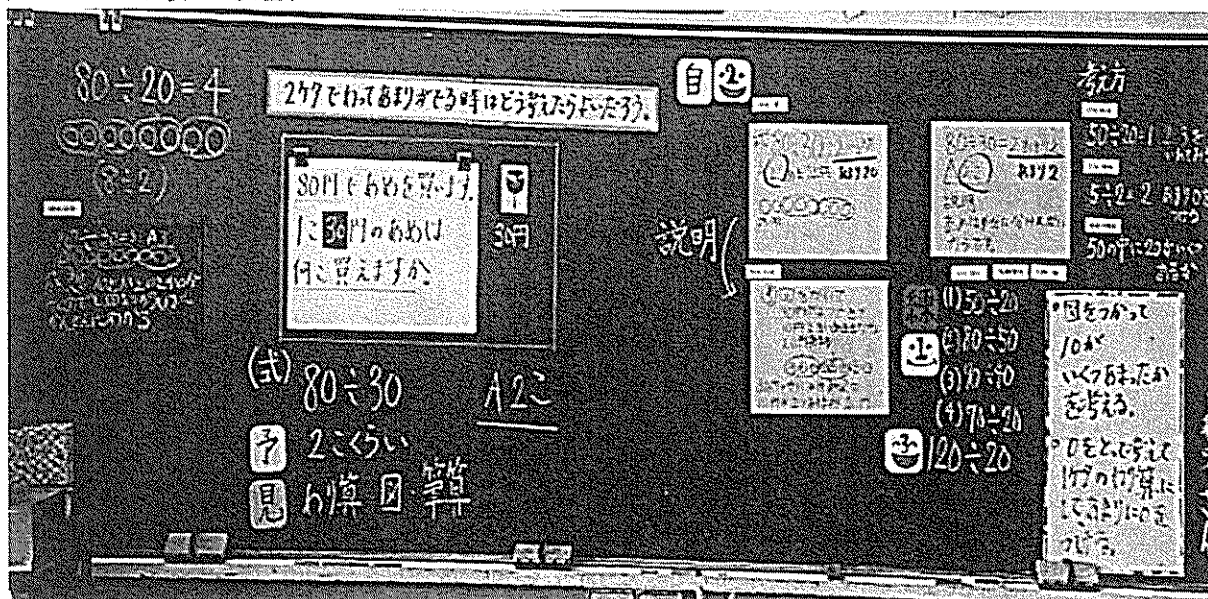
④生きた授業にするために

- 子どもの思考を生かす。(小ボード等の活用)
- 表現の場としての活用
- 書く内容、表現の仕方を工夫する。
→箇条書き、図、表に整理する。
→キーワードのみ、グループで囲む。
→矢印でつなぐ。

(平成25年度 「学びの工夫」 追加資料 No. 2 H25.11.26 より抜粋)

<作成> 君津市教育委員会・君津市学力向上推進委員会

(小4 わり算の板書)



(平成25年度「学びの工夫」追加資料 No.2 H25.11.26 より抜粋)

<作成> 君津市教育委員会・君津市学力向上推進委員会

(6) 個別指導

自分で課題に取り組んでいたり、グループで話し合っ活動をしていたりするときに、子どもたちがどのような様子で取り組んでいるのか把握することが重要です。つまずきのみられる子どもに、各教科で下記のような方法で、個別指導を行ってみましょう。

個別指導の方法

【各教科共通する方法】

(授業中)

- ・自分の力では進められない子どもを一か所に集め、具体物などを用いて説明する。なお、途中で分かった子どもは、自席に戻って取り組ませる。
- ・一人でも解くことができるような、段階に応じたヒントカードを作成する。

(授業後)

- ・個別の課題を出したり、補習等をしてしたりしてフォローをする。

【国 語】

- 「書く力」を身に付けさせる学習では、書き方を示したモデルを視写させたり、どこに書いたらよいのかノートに指示を出したりする。
- 自己評価シートの質問や要望の記入内容から、つまずきを把握し、授業のはじめに全体に確認する。

【社 会】

- 「予想」を立てる段階において
 - ・予想が立てられない子どもに対して、既習内容を参考にして予想を立てさせたり、これまでの生活経験や体験等に基づいて予想を立てさせたりする。
- 「調べる」段階において
 - ・どこの資料をどのように調べたらよいのか分からない子どもには、ヒントとなる資料が載っているプリント等を別に配付する。
- 「まとめる」段階において
 - ・まとめる際のキーワードがいくつか書かれたカードを用意し、「キーワードをつなげれば・・・」という段階をつくり、徐々にまとめることができるようにする。

【算数・数学】

- 教員の声掛けによる支援
 - ・ノート等の記述からつまずきを把握し、口頭で考え方や計算方法を具体的にアドバイスしたり、参考となるノートの場所や教科書のページを指示したりする。
- プリントを与えることによる支援
 - ・解決の糸口となる考え方や、公式等がわかりやすくまとめられたプリントを与え、自分の力で最後まで考えることができるようにする。

【理 科】

- ものづくり等の活動で困っている子どもは、教員のもとに集め、やり方を示しながら一緒に操作や作業をさせる。
- 実験計画が立てられなくて困っている子どもは、教員のもとに集めて、図や絵、具体物を使って実験計画の立て方を理解させる。
- 計算の必要な単元では、苦手な子どもに計算を穴埋めにしたプリントを活用させ、最後まで答えが求められるようにする。

【英 語】

- ペアやグループ（４人組の英語班）による教え合いを行わせる。
- 音読練習の時には、最後に日本人教員か外国人講師のところで発表させ、改善点などを個別に指導・助言する。
- 授業の中で、ライティングの時間を確保し、個別に指導する時間をつくる。

【音 楽】

- 楽器を演奏することに苦手意識を持つ子どもに対して
 - ・音楽の流れに乗れることを前提に、「これならできる」と本人が感じることができるよう、楽譜を簡単にしたものを出し、できたら音を増やさせる。
- (例)
ド－シドレ－ラ－ソ－ファ－ミファソ－レ－の音だけを吹く。
- 歌うことに苦手意識を持つ子どもに対して
 - ・本人の歌いやすい場所を選ばせる。
- 楽譜を読むことに苦手意識を持つ子どもに対して
 - ・授業の始めに「音楽クイズ」のような場を設定して、音符の名前やリズム読み等をドリル的に扱うことで、音符に親しむ機会を多く持たせる。

【技術・家庭科・図工・美術】

- ペアやグループによる教え合いを行わせる。
- 活動が進んでいる子どもの作り方や道具の使い方を参考にさせる。
- 作業等に時間のかかる子どもには、放課後補充指導等を活用して、活動が進められるようにする。

【体 育】

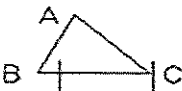
- 子ども同士がアドバイスできるようにグループを組ませ、つまずきを考えさせたり、見本を見せたりする。
- 技能競技は、練習中に個々にワンポイントアドバイスをして改善させる。
- 個に応じた目標を立てさせ、能力別コースを設置し練習させる。
- 体育ノートや学習カードに毎時間、成長したことや課題をアドバイスし、参考にさせる。

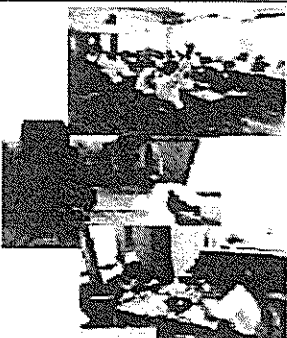
(7) 学習形態

子どもの実態や学習する単元の内容に応じて、「一斉」や「ペア」、「グループ」等学習形態を工夫してみましょう。「一斉」の学習形態ばかりでは、子どもに説明させたり、話し合わせたりする時間が十分とれずに、教員が多くを話す授業となってしまう。また、学習に苦手意識のある子どもも、仲間と一緒に考えたり、教えてもらったりすることで、一緒に授業に参加して取り組みもうという意欲を高めることができます。

1 対象学年 中学校3年

2 単元 「5章 図形と相似 1節 三角形の相似条件」

本時の目標		相似な三角形の作図を通して、三角形の相似条件を導き、それを理解することができる。 【知識・理解】【思考・判断・表現】	
学習の流れ	指導のポイント	学習形態	留意点
1 復習する	○相似な図形の性質を確認する。	一斉	・この字型の図形で行う。
2 学習課題を確認する	【学習課題】三角形の相似条件を考えよう。		
3 問題を把握する			
4 解決の見通しを持つ	【問題】$\triangle ABC$と相似な三角形（辺の長さを2倍に拡大した図）を作図しよう。  さを3つ、角の大きさを3つ）すべてが必要ではないことを確認する。		○合同と同様で、三角形の6つの要素（辺の長さ・合同な三角形を作図する方法）を想起させる。
5 自力で解決する	○1つだけではなく、考えられるいろいろな方法で作図を考えさせる。 ①2辺の長さの2倍とその間の角 ②3辺の長さの2倍 ③1辺の長さの2倍とその両端の角で作図をする。	個	・わからない生徒には三角形の合同条件と比較しながら考えさせる。
6 比較検討する	○はじめはペアの相手。その後生活班を元にした3～4人のグループの中で自分の考えを説明し、まとめる。	ペア グループ	・はじめは隣の子とお互いの考えを説明し合わせる。その後3～4人のグループで確認しあわせ、まとめる。グループ内で出た作図方法を1～2ボードに書かせ、代表者に発表させる。
7 全体で確認する	○作図方法を代表者に発表させる。（発表したものと同じものがないか確認し、あればそのグループの発表を優先させ、三角形の相似条件の分類につながるようにする。）	全体	
8 まとめる	○聞いて分かったことなどをノートにまとめさせる。 ○三角形の相似条件をまとめさせる。	個	・図形はそのままで行う。 ・合同条件と同じ部分、違う部分を確認させる。
	【まとめ】 三角形の相似条件をまとめる。 2つの三角形は次のどれかが成り立てば相似である。 ○3組の辺の比がすべて等しい。 ○2組の辺の比とその間の角がそれぞれ等しい。 ○2組の角がそれぞれ等しい。		
9 適用問題を解く	○個で解かせ、グループ内で確認させたあと、全体で確認する。	個 グループ	・グループの図形のまま、はじめは個で解かせ、その後グループで確認したり、教え合ったりさせる。
10 振り返る	○授業でわかったこと、つまづいた点、注意しなければならない点などを自分の言葉でノートにまとめさせる。 ○本時の復習課題を確認する。	個 一斉	・本時の授業を振り返り、わかったことや注意しなければならない点などを自分の言葉でノートにまとめさせる。 ・本時のノートを見ながら復習問題をノートの空いているスペースに解くことを確認する。

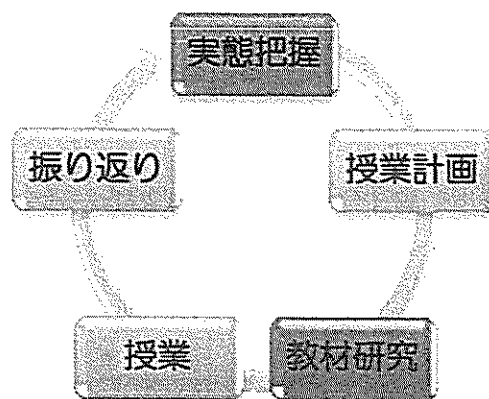
学習形態	授業上の留意点・学習形態における留意点の詳解
1.復習する ～ 5.自力で解決する 個	●この字型の隊形で学習に取り組ませる。 ●復習から見直しを持たせる場面では、一斉で行うが、この字型にすることで、生徒相互に対話を行わせる。 ●この後、ペア対話へつながりやすくする。 ●1つだけではなく、いろいろな方法を考えさせる。 ●いろいろな考えを自由に書けるように助言する。 
6.比較検討する ペア・グループ グループ	●この字型の隊形で、隣の生徒と自分の書いた方法をお互い自由に説明し合わせる。 ●その後隊形を変え、生活班を元に3～4人のグループを作り、それぞれ書いた方法を確認させ、まとめさせる。 ●ペアにすることで、話しかけられると答えなければならなくなり、会話が成立するようになる。また自由に意見交換ができる。 ●3～4人のグループは普段の生活班を元に作ることで、日常の学級経営とも連携し、人間関係作りにも役立つ。 ●グループでは人の意見を聞きながら、さまざまな考え方に触れるようにすると共に、書き方の確認をさせる。 ●それぞれのグループ内で出た作図方法のうち1～2ボードに書かせ、代表者に発表させる。 ●発表したものと同じものがないか確認し、あればそのグループの発表を優先させ、三角形の相似条件の分類につながるようにする。 ●グループの意見としてであるが、自分たちの意見として捉えさせ、所属感・達成感につなげる。 ●時間をもてあます生徒が出ないよう、グループで発表内容について精査させたり、別の方法で取り組ませたりする。   
9.適用問題を解く 個・グループ	●グループの隊形のまま、はじめは個で解かせ、その後グループで確認したり、教え合わせたりさせる。 ●わからない生徒にはグループ内で教えさせるようにする。 ●できた生徒には別の課題に取り組みよう指示する。

【平成26年度 学力向上推進委員会作成 学習形態を工夫した授業モデルより】

(8) 授業の振り返り

その日の授業が終わったからおしまいというわけではありません。教員が計画していた授業ができたのか、子どもの反応やノート等の様子から技能が身についたり理解ができたのか、授業を必ず振り返らなければなりません。そして、その振り返りをもとに、次の授業へとつなげていかなければ、子どもに身に付けさせたい力はついていきません。そこで、週案等をうまく活用して、朱書き等で授業の課題等をメモし、次の授業でどのような手だてをとるのか書き記しておく、どのように学習を進めてきたのか単元全体を振り返ることに活用することができます。

【授業サイクルイメージ】



4 授業力アップシートの活用について

(1) 活用のねらい

授業力アップシートは、君津市の小・中学校全ての教員が授業で大切にしなければならない8つのポイントがどれくらいできているかをチェックし振り返ることで授業改善を図っていくために活用していくものです。授業者はもとより、参観者の目を通して、客観的に授業をチェックしてもらうことで、「わかる授業、魅力ある授業」へとつなげていくことをねらいとしています。

(2) 「授業力アップシート」と「セルフチェックシート」のちがい

「授業力アップシート」は、活用のねらいで記したとおり、「君津市の授業」で示した8つの授業のポイントを意識した授業ができることを目指したものです。一方、「セルフチェックシート」は、千葉県教育庁南房総教育事務所から示され、現行学習指導要領のもと、問題解決的な学習の充実により、活用する力を育てていくために日頃の授業をチェックするために作成されたものです。

(3) 活用場面

授業力アップシートは、毎日または毎週必ず活用するというものではありません。「管理職による授業参観」、「校内授業研究会の時」、「相互授業参観の時」等、場面を決めて活用をしてください。大切なことは、1回限りではなく、課題があったところを改善できたのかを確認できるように活用してください。なお、授業者は、授業をする前に各項目を確認し授業構想を立ててから授業に臨んでください。

【活用場面】

・ 管理職による授業参観 ・ 校内授業研 ・ 相互授業参観 等

授業力アップシート	セルフチェックシート
作成：君津市学力向上推進委員会	作成：千葉県教育庁南房総教育事務所
目的：8つの授業ポイントができていないか チェックし授業改善を図るため	目的：問題解決的な学習の充実により、 活用する力を育てていく授業がで きたかチェックし授業改善を図る ため
使用者：授業者、参観者	使用者：授業者
活用場面：管理職による授業参観、 校内研修、相互授業参観 日頃の授業、授業構想	活用場面：日頃の授業

* 授業力アップシートの活用方法は、活用場面に合わせて校内で決めてください。

(4) 活用方法

授業力アップシート

氏名

実施日	月	日()	教科	単元名
-----	---	------	----	-----

授業ポイント	項目番号	チェック項目	授業者	参観者
学習規律	1	授業準備をさせたりきちんと整列させたりした。		
	2	正しい姿勢を意識させた。		
	3	話を聞くときには、相手を見て聞かせた。		
	4	返事をさせた。		
	5	相手に聞こえる声で発表させた。		
	6	道具を安全に使用させた。		
実態把握	7	授業前に児童生徒の実態を小テストなどから把握した。		
	8	授業中にノートの記述や発言などから実態を把握した。		
	9	授業後にノートや学習カードの記述などから実態を把握した。		
教材研究	10	授業で教えること、考えさせることを明らかにしていた。		
	11	自分の考えを書く時間や、話し合いをする時間を確保した。		
	12	授業内容について指導書や関係書籍などを用いて調べた。		
	13	他の教員と授業内容や教材について意見交換した。		
	14	学習内容に応じた教材や教具を用意した。		
学習課題・ 学習問題	15	学習問題・学習課題をつかませた。		
	16	学習問題や学習課題を引き出す発問をした。		
	17	児童生徒に考えさせ、理由を問う発問をした。		
板書	18	児童生徒が見やすい字の大きさに書いた。		
	19	学習のねらいを明確に示した。		
	20	児童生徒の考えや発言を記述し、学習の流れに沿った板書にした。		
	21	チョークの色を工夫して分かりやすくした。		
学習形態	22	学習の内容に応じて学習形態の工夫をした。		
	23	ペアやグループを編成する際には、児童生徒の		
個別指導	24	学習状況に応じて指導・助言をした。		
	25	補助プリントなどを活用した。		
授業の振り返り	26	自己評価をさせたり感想を書かせた。		
	27	週案を活用した。		
	28	次の学習に向けて改善することを明らかにした。		

授業者は、それぞれの項目について評価する。

参観者は、チェック項目に合わせて、評価する。

教科や授業の内容に応じて、評価できる項目について記入する。

教科や学習内容によって、全ての項目が評価できない場合もあるため、評価できなかったものは、斜線を入れる。

(できた…○、まだ工夫・改善が必要…△、できなかった…×)

授業者は、8つの授業ポイントから、重点を決めて行うという活用方法もある。

評価は、3段階で行う。

次の授業に向けて

参観者から

よかった項目	特によかったところ
この欄には、参観者が記入をする。参観者は、よかったところや工夫・改善をした方がよいところ(△、×であった項目)について、理由と次にどのようにしたらよいのかアドバイスを記入する。	
工夫・改善項目	次につなぐアドバイス

授業者

よかった項目	特によかったところ
この欄には、授業者が記入をする。授業者は、△や×であった項目について、次の授業ではどんなポイントを改善していくのか示し、具体的な手立てを記入し授業改善に活かせるようにする。	
工夫・改善すること	具体的な手立て

授業力アップシート

氏名

実施日	月	日()	教科	単元名
-----	---	------	----	-----

授業ポイント	項目番号	チェック項目	授業者	参観者
学習規律	1	授業準備をさせたりきちんと整列させたりした。		
	2	正しい姿勢を意識させた。		
	3	話を聞くときには、相手を見て聞かせた。		
	4	返事をさせた。		
	5	相手に聞こえる声で発表させた。		
	6	道具を安全に使用させた。		
実態把握	7	授業前に児童生徒の実態を小テストなどから把握した。		
	8	授業中にノートの記事や発言などから実態を把握した。		
	9	授業後にノートや学習カードの記事などから実態を把握した。		
教材研究	10	授業で教えること、考えさせることを明らかにしていた。		
	11	自分の考えを書く時間や、話し合いをする時間を確保した。		
	12	授業内容について指導書や関係書籍などを用いて調べた。		
	13	他の教員と授業内容や教材について意見交換した。		
	14	学習内容に応じた教材や教具を用意した。		
学習課題 ・ 学習問題	15	学習問題・学習課題をつかませた。		
	16	学習問題や学習課題を引き出す発問をした。		
	17	児童生徒に考えさせ、理由を問う発問をした。		
板書	18	児童生徒が見やすい字の大きさに書いた。		
	19	学習のねらいを明確に示した。		
	20	児童生徒の考えや発言を記述し、学習の流れに沿った板書にした。		
	21	チョークの色を工夫して分かりやすくした。		
学習形態	22	学習の内容に応じて学習形態の工夫をした。		
	23	ペアやグループを編成する際には、児童生徒の実態に合わせた。		
個別指導	24	学習状況に応じて指導・助言をした。		
	25	補助プリントなどを活用した。		
授業の振り返り	26	自己評価をさせたり感想を書かせた。		
	27	週案を活用した。		
	28	次の学習に向けて改善することを明らかにした。		

(できた…○、まだ工夫・改善が必要…△、できなかった…×)

次の授業に向けて

参観者から

よかった項目	特によかったところ
工夫・改善項目	次につなぐアドバイス

授業者

よかった項目	特によかったところ
工夫・改善すること	具体的な手立て

小学校1・2年生

：

基本的な学習の習慣をきちんと身につける。

小学校1・2年生
こんな時期です

学習時間のめやす

10～20分

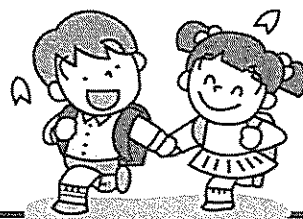
「育ち」や「学び」の特徴

- 家庭学習を一人で進めることはまだ難しいので、家族の手助けが必要です。
- 「やったね!」「よくできたね!」まわりのほめ言葉が、すばらしい意欲をうみだします。
- いろんなことに興味・関心をもち、何でも知りたがりです。
- 「早起き早寝」「しっかり朝食をとる」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」などの基本的な生活習慣を身に付けることが、学習の習慣につながります。

学習内容の特色（学校で）

「読み、書き、計算」など、基礎的・基本的な学習が始まります。
教科ごとの45分間授業が基本です。先生の話をしっかり聞いて学習します。
生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
繰り返し練習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。
「鉛筆を正しくもつ」「明日の学習準備をする」「整理整頓をする」も、学習を支える基本となります。

家庭学習の ポイント3か条



1 最後までやり終える!～家族も一緒に根くらべ～

「宿題は最後までやること」を守らせましょう。最後までやったかどうかを必ず家族の目で確認してあげてください。

テレビやゲームは、時間のけじめをしっかりと守らせましょう。根負けせずに、ねばり強くはたらきかけることが大切です。

2 子どもに手伝いを!～高学年・中学生になっても～

家庭で子どもにできる仕事を任せましょう。

家族の一員としての自覚が育つとともに、学習に必要な持続力、集中力、根気などが育ちます。こうした家事の分担は、学年が上がっても継続するとよいです。

3 子どもが見ている!～子は親のうしろ姿を見て育つ～

大人が、お手本となるような「学ぶ」姿を見せましょう。家族ぐるみでよりよい学習の習慣づくりに努めることが大切です。読書はとて効果的です。

小学校

1・2年

家庭学習

こんな内容

方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習の前に、学習する場所の整理整頓をする。
- 学校からのプリント類を家族と一緒に確かめる。
- 今日の宿題を家族と一緒に確かめる。
- えんぴつが正しくもてているか家族に見てもらう。



宿題

全部できるようになれば、まず大丈夫！
宿題をやり終える子どもになりましょう。家族からのアドバイスをもらいましょう。



日記

楽しかったことやうれしかったことを、自分の言葉で書くようにしましょう。



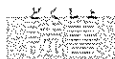
読書

- 楽しんで、すらすら読めるように毎日練習しましょう。
- 句読点（「、」や「。」）に気をつけて、大きな声ではっきりと読みましょう。



- ひらがなで、しりとりをしながら書いてみましょう。（1年）
- 書き順に気をつけて、ていねいにゆっくり書きましょう。（読みがなもつけましょう。）

- 漢字は意味のわかる言葉で書きましょう。（「言」ではなく「言う」で練習）



- 絵本や物語など、いろいろな種類の本を読みましょう。



- 教科書の文や詩、お話などをノートに書き写しましょう。



- 気に入っている文章や詩の暗記をしましょう。

算数

- 速さを競わずに、楽しみながら計算に慣れるようにしましょう。正しく計算ができるようになれば、少しずつスピードを上げて練習しましょう。
- まちがった問題は、必ずもう一度やり直す習慣をつけましょう。正しい計算手順が確実に身につくように、ときには、手順を唱えながら練習しましょう。
- おうちの人と、時計の読み方の練習をしましょう。

生活

- 休みの日には、山や川、動物園や植物園に出かけ、本物の動植物にふれましょう。家でも生き物を育ててみましょう。

音楽

- 鍵盤ハーモニカの練習をしましょう。
- 習った歌を家族といっしょに歌ってみましょう。

小学校3・4年生

…
自ら机に向かう姿勢を育てる。

小学校3・4年生
こんな時期です

学習時間のめやす

30～40分

「育ち」や「学び」の特徴

- 自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなりますが、まだ手助けは必要です。
- 好奇心が旺盛で、行動範囲も広がります。
- みんなと行動することを好むとともに、口答えや反抗が少しずつ見られるようになります。
- 家族の温かい助言や励ましの言葉が、やる気を起こさせます。

学習内容の特色（学校で）

- 「総合的な学習の時間」や「社会科」「理科」の学習が始まり、学習範囲も大きく広がります。
- 資料集や地図帳、辞典などを使い、調べ学習をすることが多くなります。
- 新しい漢字を、たくさん習います。（3・4年生とも200字ずつ）
- 算数では、分数や小数など、少しずつ抽象的な内容を学び始めます。
- 四則計算（ $+$ ・ $-$ ・ $\times$ ・ $\div$ ）の基礎・基本を徹底して学びます。

家庭学習の ポイント3か条



1 宿題以外の学習にも挑戦！～好奇心を学ぶ意欲に～

宿題以外の自主的な学習に積極的に挑戦させることが、家庭学習のレベルアップにつながります。

そのためにも、身のまわりの自然や社会の出来事にも目が向くように働きかけましょう。

家事を分担し、進んで行うことも立派な学習です。

2 テレビやゲームは時間を決めて！～家族の協力を～

テレビやゲームに夢中になり、時間がだらだらと長くなることがあります。

家族みんなでルールを決めてはいかがでしょうか。はじめをつけさせることが、自律心や学習への集中力を育てることに也有利于です。根負けせずに、アドバイスをし続けましょう。

3 ほかに子どもと比べない！～「がんばり」を本気でほめる～

学習に少しずつ個人差が出てくる頃です。友だちや兄弟・姉妹で成長を比べることは避けて、「がんばり」を見逃さずに、本気でほめましょう。

小学校

3・4年

家庭学習 こんな内容 方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習の前に、学習する場所の整理整頓をする。
- 学校からのプリント類を親に渡す習慣をつける。
- 今日の宿題を自分で確かめる。



宿題

宿題をきっちりとやり遂げる子どもになりましょう。わからないところは、親や先生に進んで聞きましょう。



復習

ノートや教科書やを参考にして、学校での学習をノートにまとめてみましょう。

国語

読書

- 毎日1回は声に出して読みましょう。会話は、気持ちを込めて読みましょう。

漢字

- 学校の漢字ドリルなどを活用して、繰り返していねいに練習しましょう。
- 正しい筆順で「はね、はらい、とめ」に気をつけて書きましょう。
- 漢字一つだけを書くのではなく、「じゅく語」で練習しましょう。
(「算」ではなく「算数」「計算」のようなじゅく語で練習)
- だまって書くのではなく、小さな声で読みながら書きましょう。
- 国語辞典や漢字辞典を手元におき、わからない言葉を調べたり、使い方を書いたりしましょう。

読書

- いろいろな種類の本を読みましょう。
- 家庭で「読書タイム」をつくり、家族で本に親しみましょう。

教科書

- 教科書の文や詩、お話などをノートに書き写しましょう。

算数

- 計算手順が正しく身につくよう、毎日少しずつ計算練習をしましょう。
- 筆算は位をそろえて書き、手順を確かめながら計算しましょう。
- 手順が長い計算も、集中して順番に計算していきましょう。
- 三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるように練習しましょう。

社会科

- 教科書のその日に勉強したところや、今度勉強するところを読んでみましょう。
- 勉強に関係のあることや「おもしろそうだな」と思ったことを調べ、まとめてみましょう。

音楽

- リコーダーの練習をしましょう。
- 階名で歌ってみましょう。

日記

- 会話を入れてくわしく書くなど、様子がよくわかるように工夫しましょう。読み直す習慣もつけましょう。

小学校5・6年生

…自ら予定を立て、自力で学習を進める。

小学校5・6年生
こんな時期です

学習時間のめやす

50～60分

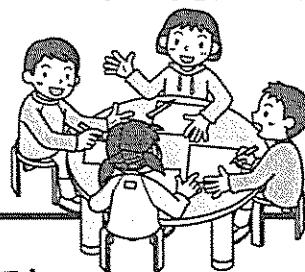
「育ち」や「学び」の特徴

- 一人前に接してもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。
- 自分を客観的に見つめたり、友だちと自分を比べたりするようになります。
- 考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- 得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
- 先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や・興味・関心が大きく左右されます。
- 小学校の学習のまとめをして、中学校へつなげる大切な学年です。

学習内容の特色（学校で）

- 「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- 筋道立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えてきます。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習（問題解決的な学習）が多くなります。
- 自ら学ぶことの面白さや楽しさを経験させ「学び方」や「ものの考え方」を育てます。

家庭学習の ポイント 3 か条



1

予定を立て、計画的な学習を！～勉強時間を決めて～

放課後も慌ただしく過ごす子どもが多く見受けられます。その日の予定を立て、見通しをもって学習させることが大切です。必ず行う学習の時間帯の設定をさせるとよいです。

長い目で見守ってやることにより、計画的な学習ができるようになってきます。

2

今一度 基本的な生活習慣の見直しを！～生活にリズムを～

生活リズムの乱れは、勉強ざらいにつながる恐れがあります。

「早起き早寝、夜ふかしをしない」「朝食をとる」「朝に排便をすませる」「テレビやゲームの時間を決める」など、中学校生活に向けて、今一度生活習慣の見直しをさせましょう。

家事の分担も積極的に進めましょう。

3

目標に向かって努力することの大切さを！

子どもの将来の夢や希望、勉強する目的や勉強方法、学校の学習の様子や親の成功・失敗談などを話題にして、目標を持って努力することの大切さを伝えましょう。

子どもに「伝記(偉人伝)」を読ませてみるのもよいでしょう。

小学校 5・6年

家庭学習 こんな内容 方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習前に、勉強する場所の整理整頓をする。
- 学校からのプリント類を親に渡す習慣をつける。
- 宿題を自分で確かめ、やる順番を決める。



復習

ノートや教科書を参考にしながら
学校での学習の重要ポイントを自
分なりにまとめてみましょう。



自学

もっと知りたいな、調べたいなと
思ったことや自分で進めたい学習
に挑戦してみましょう。

国語

- 毎日1回は声に出して読みましょう。会話文は、気持ちを込めて読みましょう。
- 詩や俳句、短歌などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
- 他の教科の教科書を音読すると、重要な用語や内容を理解できるようになります。
- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
- 漢字一つだけを書くのではなく、「じゅく語」で練習しましょう。
(「算」ではなく「算数」「計算」のようなじゅく語で練習)
- だまって書くのではなく、小さな声で読みながら書きましょう。
- 国語辞典や漢字辞典を手元におき、わからない言葉を調べたり、使い方を書いたり
しましょう。(調べる前に意味を予想してみましょう。)
- 習った漢字を使って、熟語や短文を作りましょう。
- いろいろな種類の本をえらんで読みましょう。
- 家族で感想を語り合い、共に心を通わすことのできる世界を作りましょう。
- 教科書の文や詩、お話などをノートに書き写しましょう。
- 文をかたまりごとに見て、一気に書き写しましょう。何度も見ません。

算数

- よく間違える計算は、繰り返し練習しましょう。
- 答えの確かめを、自分でできるようになりましょう。

社会・科

- 大事なところに線を引きながら、教科書や資料集をもう一度読んでみましょう。
- わからないことや興味のあることを調べ、まとめてみましょう。
- 都道府県の位置や県名を覚えたり、歴史上の人物や世界の主な国の位置を調べたり
しましょう。

音楽

- リコーダーの練習をしましょう。
- 階名の早読みにチャレンジしたり、記号の意味を覚えたりしましょう。
- 家族で、音楽会にもチャレンジしてみましょう。

家庭科

- 家庭科で学習したことを、家庭生活の中で実践しましょう。(洗たく・料理など)
- 学んだことを生かし、家事の分担を考えましょう。

日記

- 書くことに慣れるとともに、自分の気持ちや考えを整理しながら書くことを心がけ
ましょう。

学 び の 工 夫

低学年

「生かつしゅうかん」チェックカード（てい学年用）

ねん
年

くみ
組

（ ）

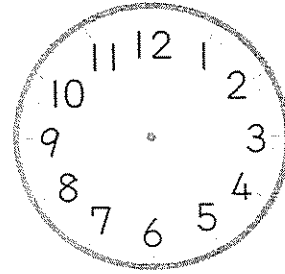
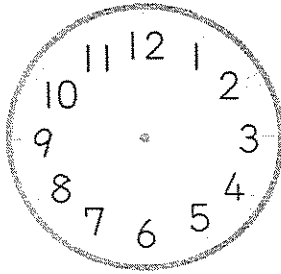
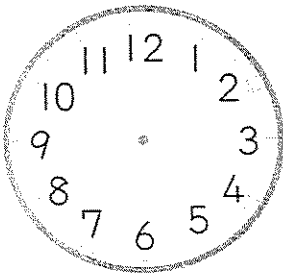
『なんじに なにをするか』 けいかくをたてましょう。

*とけいに ながいはりと みじかいはりを かきましょう。

①あさ おきる じこく

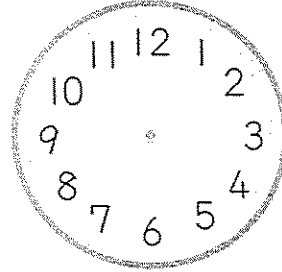
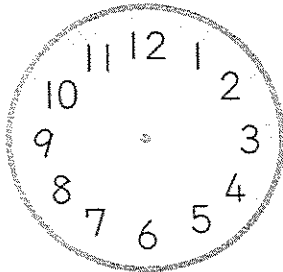
②あさごはんを たべる じこく

③いえで べんきょうを はじめる じこく



④あしたの じゅんぴをする じこく

⑤ねる じこく



◎じかんどおりにできた ○じかんどおりではないけどできた ×できなかった をチェックしましょう。

※1 おきるじこくは、【◎】か【○】でかきます。

※2 ねるじこくは、【◎】かねたじこくをかきます。

※3 わすれものは、なかったら【○】、あったら【×】を学校でかきます。

月 日 ()	おきる じこく	あさごはん	かてい がくしゅう	あしたの じゅんぴ	わすれもの	ねる じこく	たん ぱん にん いん 担 任 印
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							

学びの工夫

低学年

脳科学からとらえた学び方の法則（暗唱のすすめ）

論理的な理解の前に、まず暗唱をさせましょう。

脳科学では、「9歳半の節」が脳の転機とされており、低学年の児童は、6～8歳で、どの子も脳の転機前です。

この転機前の脳は、論理的事実よりも、かえって特に意味を持たない文字や絵や音に対して驚異的な記憶力を示します。（低学年では、「理解する」家庭学習をしようとすると、脳が拒否反応を起こします。）

暗唱のすすめは、

「言葉遊び」・・・リズムがよくて子どもが楽しめる短めの文

「百人一首」・・・低学年の子どもでも、札をゆっくり読んでやると、十分ついていくことができます。

声に出してくり返し読むことが大切です。

様々な実験の結果、「黙読」よりも「音読」の方がより脳を活性化することがわかりました。

暗唱とは、一字、一句まちがえても「できた」ことにはなりません。無理やり覚えるのではなく、何回も何十回も読みこんで、文章が流れるように口から出てくるまでさせましょう。

学校でチェックしてあげましょう。

家庭学習で暗唱してきた文章を学校でチェックしてあげることが大切です。

学校では、暗唱を先生だけが試験官になるのではなく、いち早く暗唱ができた子数名を試験官にするとよいです。朝自習や国語の授業の始めの短い時間でできます。

覚えたことを、人（家族や友だち）に聞いてもらう経験をさせましょう。

学校で先生や友だちに聞いてもらう経験をしていれば、家庭でも家族に聞いてもらうことができます。また、この聞いてもらう経験は、学習の中で学んだことを人に説明し、学習を深化させる「学び」へとつながります。

子どもの「できた」「合格した」喜びを意欲につなげ、暗唱文を少しずつ長くしてみてはいかがでしょうか。

低学年の子どもでも、十分、名文にチャレンジさせることができます。

変化のあるくり返しでテーマを与えよ。

1 読みメニュー「声に出してすらすら読もう」

- ①国語で勉強している話を1回、最初から最後まですらすら読む。
- ②今勉強している漢字ドリルの練習ページを1回、最初から最後まですらすら読む。
- ③先生おすすめの詩文を1回、最初から最後まですらすら読む。
- ④先生おすすめ百人一首を1回、すらすらと読む。
- ⑤自分の好きな本の1ページを1回、最初から最後まですらすら読む。

2 書きメニュー「ノートのますに触れないようにていねいに書こう」

- ①国語で勉強している話を1文、ノートに写し書きをする。
- ②今勉強している漢字ドリルの漢字を1回、ノートに自分でテストする。間違えた漢字だけ、もう1回書き直す。
- ③先生おすすめの詩文を一詩文、ノートに写し書きをする。
- ④先生おすすめ百人一首を一首、ノートに写し書きをする。
- ⑤自分の好きな本のページの一文を、ノートに写し書きをする。

3 日記メニュー「一日の生活を10行程度でまとめよう」

- ①なるほど日記(「なるほど」と思ったことを書く。「なるほど」から始める。)
- ②おめでたい日記(「おめでたい」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ③うれしい日記(「うれしい」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ④かなしい日記(「かなしい」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑤おもしろい日記(「おもしろい」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑥こわい日記(「こわい」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑦ラッキー日記(「ラッキー」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑧ありがとう日記(「ありがとう」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑨なぜ日記(「なぜ」と思ったことを書く。「」から始める。)
- ⑩びっくり日記(「びっくり」したことを書く。「」から始める。)
- ⑪〇〇日記(「〇〇」と思った(した)ことを書く。「〇〇」は自分で考える。)

例) はずかしい・きれい・こまった・まだかな・がまん・お買い物・旅行

書き方例) 今日、なるほどと思うことがありました。

それは、2時間目のときでした。

.....

学びの工夫

低・中学年

計算への取り組み方

①計算はゆったりと

計算ミスをなくすために、1つ1つじっくり取り組むことが大切なので、ノートなどにはゆったり式を書き、計算する習慣を身につけさせましょう。

②途中の式をていねいに（ていねいに整理して書く）

どこで間違えたか確認することはとても大事です。そのために、

- ・数字はきれいに、ていねいに書く。
- ・決して、省かずに書く。（暗算でもできる簡単な計算も書き表す）
- ・式は縦に書いていく。（「＝」を縦に揃える）
- ・計算の工夫を常に考える。（左から機械的にやるのではなく、簡単にできる方法を常に考える）

① 間違ったら消さないで、隣に書き直す

$$\begin{array}{r} 24 \\ \times 7 \\ \hline 145 \end{array} \quad \rightarrow \quad \begin{array}{r} 24 \\ \times 7 \\ \hline 168 \end{array}$$

上下は一行あける

② ③

$$\begin{array}{r} 47 \\ +32 \\ \hline 79 \end{array} \quad \begin{array}{r} 86 \\ -32 \\ \hline 54 \end{array}$$

隣の問題とは、2マスあける

③間違いをしっかり見直す

間違えたらすぐ横にもう一度やり直すなどをして、もう一度考えるようにしましょう。

計算問題の出し方

ステップ1 問題を解く ※次ページに記載

ステップ2 自分で問題を作る（数字だけを代える）

例：1□×7に1～9までの数字を入れて計算しましょう。
→一つ一つ計算していくうちに、きまりを見つけることができます。
その中でも繰り上がりや繰り下がりなどいろいろあります。

ステップ3 自分で問題を作る（式から文章を作る）



計算は、段階を踏んで練習すれば、どの子も「やればできる！」が体験できます。

小学校卒業時までには到達すべき基本的な計算力は、

（目安 100問5分以内）

「あまり(繰り下がりあり)のあるわり算」がすらすらできることです。

あまりのあるわり算には、「たし算」「ひき算」「かけ算」「わり算」の全ての計算要素が入っています。よって、3年生で学習するこの「あまりのあるわり算」を、速く正確に計算できることが、とても大切になってきます。

1～3年生までの計算力を鍛えておけば、他の複雑な計算にも応用がききます。そればかりか、この力は、通分・最大公約数・最小公倍数・比例などを計算、理解する上で盤石の土台になります。それは、中学校や高校の数学でも有利に働きます。



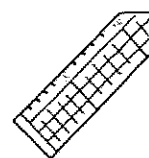
そのための方法は

◎ 「声を出して行う計算練習」や「カードによる計算練習」(声に出すことは効果的です)

- ① 10までの数の分解
- ② 20までの数の分解(繰り上がり, 繰り下がり)
- ③ かけ算九九の暗唱
- ④ のぼり九九, さがり九九



※・シールを貼ったり、表(カード)を作るなど工夫することで意欲化を図りましょう。
・指で数えることから脱出するために、カードで反射的に答えを出すまでにしましょう。



◎ プリントによる計算練習

- | | |
|---|-------------|
| ① 10マス計算【たし算, ひき算, かけ算】 | (各10～20秒以内) |
| ② 50マス計算【たし算, ひき算, かけ算】 | (1分30秒以内) |
| ③ 100マス計算【たし算, ひき算, かけ算】 | (3分以内) |
| ④ 穴あき九九100題 例: $6 \times () = 48$ | (3分以内) |
| ⑤ あまりなしのわり算100題 | (3分以内) |
| ⑥ 九九の構成81題 例: $28 = (4) \times (7), (7) \times (4)$ | (3分以内) |
| ⑦ あまり(繰り下がりなし)のあるわり算100題 | (3分以内) |
| ⑧ あまり(繰り下がりあり)のあるわり算100題 | (5分以内) |



※・5～10問ぐらいを毎日続けて練習すると、より効果があります。
・時間を計ることで、意欲化を図りましょう。

→時間を計ることの意味→学習能力や作業処理能力が高まります。
(時間を計ることによって、子どもたちの時間感覚も身につく、作業処理能力や集中力や持続力、認識力といった学習能力も著しく向上します。)

学びの工夫

全学年

漢字ドリルを活用して～ドリル学習と指導の進め方～

1 新出漢字の指導

ドリルを見ながら、練習させます。

- ・右図のように、漢字ノートを使い、2行で一文字を練習させます。
- ・新出漢字は大きく4マスを使います。その両脇に音訓の読み方、下には書き順と、その字を使った熟語や言葉を書くなど、ドリルに書いてある情報をノートに正確に写すようにさせます。

国語の時間に、意味や使い方、書き順などをおさえるようにします。

- ・漢字の意味や使い方、書き順、間違いやすいポイントなどを板書しながら解説します。この時、漢字のへんやつくり、音訓に着目させ、どんな意味がある漢字なのかを話したり、調べてきた児童に発表させたりします。
- ・書き順…ゆび書き→なぞり書き→本書きというように、書き順を意識して5回練習させます。

※高学年になると、新出漢字の練習に時間を割くことが難しくなってくるので、児童の実態を見ながら徐々に自主学習や家庭学習に移行させていくと良いです。

ねが	源	百	ガ
う	小	ハ	ン
	お	ー	
	願	ハ	
	い	フ	
	願	ハ	
	い	ハ	
	事	源	
	願	源	
	望	源	
	念	源	
	願	源	
	願	源	
	書	源	百
		願	

2 漢字練習

ドリルに出てくる短文ごとに、書き順や送りがなに気をつけながら、ていねいに視写させます。

- ・回数…1問につき2回くり返し、さらに別の日にもう一度練習させます。(最低5回はくり返すようにします。) 高学年であれば、一週間の期間を区切って、その間に5回練習するよう指示し、方法は児童に任せてみるとよいです。

3 テスト

ドリル練習が終わったら、漢字テストで励ますようにします。

- ・定着を図るために中学年以下は10問、高学年は20問テストを実施します。短文ごとに書かせるようにします。
- ・間違った問題に印をつけ、次回は印のついているところから練習させるようにします。

4 復習

定着度を高めるために、学期の間に1～2回、まとめのテストを実施します。

- ・「漢字のまとめ」のページをテストしたり、これまでの漢字テストで間違いの多かった問題をピックアップして出題したりするなどの工夫をするとよいです。
- ・書き込めるページは自分で書き込み、できたら自分で答え合わせをさせます。(その場合、教師が答え合わせ後に間違いがないか確認をします。)

学びの工夫

中・高学年

「生活習慣」チェックカード (中・高学年用)

年 組 番 名前 ()

め あ て

* 学校に行く前や、学校から帰ってから、「何時に 何をするか」計画を立てましょう。

午前	午後
5時	3時
6時	4時
7時	5時
8時	6時
	7時
	8時
	9時
	10時

☆この5つはかならず入れましょう！ ①起きる時刻 ②朝食 ③家庭学習 ④明日の準備 ⑤寝る時刻

【◎】時間通りにできた 【○】時間通りではないけれどできた 【×】できなかった をチェックしましょう。

※1 起きる時刻は、【◎】か【○】で書きます。 ※2 寝る時刻は、【◎】か寝た時刻を書きます。

※3 忘れ物は、なかったら【○】、あったら何を忘れたのかを学校で書きます。(例 国ノート)

月 日	起きる時刻	朝 食	家庭学習	あすの準備	忘れ物	寝る時刻	担任印
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							
/ ()							

中·高学年

家庭学習を積み重ねていこう！ ～記憶よりも記録～
☆振り返りカードの活用☆

家庭学習力一丁

[illegible]

『家庭学習カード』

- ①子どもが「日付・宿題・自主学習の内容・学習時間」を記入して提出。
- ②先生は、家庭学習カードにシールを貼り、返却。

【発展】

家庭學習計畫表

- ・同様に計画表を作成する。
- ・帰りの会で計画表に記入させる。
- ・次の日の朝、振り返らせる。

このように計画表と振り返り表をセットにして、取り組ませることもできる。

1マス10分。学習したら、色をぬりましょう！

国語	算数	社会	理科
			1時間達成!
			2時間達成!
			3時間達成!
			4時間達成!
			5時間達成!
			6時間達成!
			7時間達成!
			8時間達成!
			9時間達成!
			10時間達成!
			11時間達成!
			12時間達成!
			13時間達成!
			14時間達成!
			15時間達成!
			16時間達成!
			17時間達成!
			18時間達成!
			19時間達成!
			20時間達成!
			21時間達成!
			22時間達成!
			23時間達成!
			24時間達成!
			25時間達成!
			26時間達成!
			27時間達成!
			28時間達成!
			29時間達成!
			30時間達成!
			31時間達成!
			32時間達成!
			33時間達成!
			34時間達成!
			35時間達成!
			36時間達成!
			37時間達成!
			38時間達成!
			39時間達成!
			40時間達成!
			41時間達成!
			42時間達成!
			43時間達成!
			44時間達成!
			45時間達成!
			46時間達成!
			47時間達成!
			48時間達成!
			49時間達成!
			50時間達成!
			51時間達成!
			52時間達成!
			53時間達成!
			54時間達成!
			55時間達成!
			56時間達成!
			57時間達成!
			58時間達成!
			59時間達成!
			60時間達成!
			61時間達成!
			62時間達成!
			63時間達成!
			64時間達成!
			65時間達成!
			66時間達成!
			67時間達成!
			68時間達成!
			69時間達成!
			70時間達成!
			71時間達成!
			72時間達成!
			73時間達成!
			74時間達成!
			75時間達成!
			76時間達成!
			77時間達成!
			78時間達成!
			79時間達成!
			80時間達成!
			81時間達成!
			82時間達成!
			83時間達成!
			84時間達成!
			85時間達成!
			86時間達成!
			87時間達成!
			88時間達成!
			89時間達成!
			90時間達成!
			91時間達成!
			92時間達成!
			93時間達成!
			94時間達成!
			95時間達成!
			96時間達成!
			97時間達成!
			98時間達成!
			99時間達成!
			100時間達成!

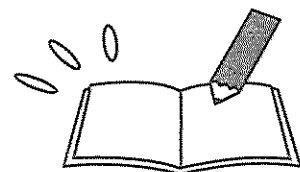
累計〇時間達成!
 や励ましの言葉
 などを 入れて、
 子どもたちの意欲
 づけをはかる

『学習時間カード』

- ①教科ごとに学習した時間を
1マス10分で色を塗る。

「家庭学習ファイルを作ろう！」
紹介した2枚のカードを板目表紙に貼り、積み重ねていく。

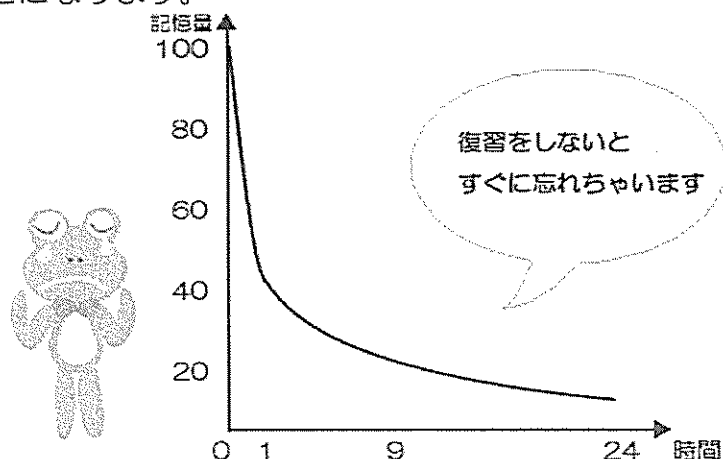
毎朝、登校したら学習したものを
家庭学習ファイルにはさんで提出
させる。
提出者・未提出者を名簿でチェッ
クする。(提出忘れ防止のため)



エビングハウスの忘却曲線

ドイツの心理学者エビングハウス（Hermann Ebbinghaus 1850--1909）の実験によると、ある学習の記憶は、20分後に42%を忘れ、1時間後に56%、1日後では74%が忘れられてしまうという結果となりました。そして1ヶ月後（30日間後）には79%が忘れられ、おぼえているのは21%でした。

学校で教師が一生懸命に勉強を教えても、子どもは1時間もたたないうちに半分以上の内容を忘れ、家に帰った頃には3分の2程度を忘れ、翌日になると4分の1程度しか覚えていないということになります。



ただし、ここで考えておかなければならないのは、このエビングハウスの実験が、「無意味綴りの暗記」というやり方だということです。

全く意味を持たない言葉を一方的に「暗記しなさい」と言われても、学習者に意欲が生じるはありません。まさに「機械的に覚えさせられる」という状態です。

受け身の姿勢だけで聞いている子どもが多いときに、いわゆる講義型で教師の一方的な話だけに終始する指導を行ったのでは、エビングハウスの実験のように、無意味な内容を暗記させるだけで、学習指導としての効果は少なくなります。

授業では

子どもが自らの頭で考える体験的な活動を多く取り入れ、それらと関連づけながら理解を深いものにしていくことで、エビングハウスの忘却曲線とは違った学習効果を与えることができます。

復習は

- ①忘却率の高い最初の24時間以内に復習をすることで、大いに効果があります。
- ②復習の回数は1回だけでなく、複数回行わせた方がより効果があります。

※ 理想の復習：24時間以内に1回目、一週間後に2回目、2回目の復習から2週間後に3回目、最後に3回目の復習から1か月後に4回目ベスト

『脳の仕組みと科学的勉強法』池谷裕二著（ライオン社）より

1 教科5分でできる「ワンポイント復習」 ～ 見開き1ページ復習のすすめ ～

ノート例

6月10日(木) 6:00～7:00

1時間目 国語

【学習】人と人は、永遠に理解し合えないのだろうか。

自分
言葉や表情のやりとり たずね合う
言葉のキャッチボール
ちがいがあっても 共感する
復習

おたがいの心を100%理解し合うのは
不可能だとしても言葉や表情でやりと
りをするによって、人は心を伝えた
り、受け取ったりできる。

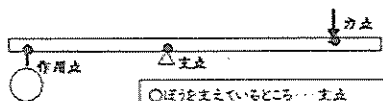
2時間目 算数

【学習】等しい分数の作り方を考えよう。

$$\frac{1}{2} = \frac{2}{4} = \frac{3}{6} = \frac{6}{12} \quad \frac{1}{12} = \frac{2}{24} = \frac{3}{36} = \frac{4}{48}$$

等しい分数をつくるには、分子と分母に同じ数をかけたり、わったりすればよい。

3時間目 理科



- ぼうをまわしているところ…支点
- ぼうに力を加えているところ…力点
- ぼうがものによれて力をはたらかせているところ…作用点

4時間目 体育

走り高跳び 助走はバーに対して45°の角度で

5時間目 社会

ご恩と奉公

自分の土地を守り、将軍のため
に戦う。
守護や地頭となつてはたらく。

幕府
ご恩
奉公
武士

武士がもっている領地を守る。
手がかりに領地を与える。
守護や地頭の役につかせる。

6時間目 音楽

歌…頭のてっぺんからゆけていくような、きれいな声を出す。

合奏…クレッシェンドはだんだん大きくするということ。

曲の出だしをそろえる。

日記

「君のほうきの使い方、とてもうまいね。」その時に先生が声をかけてくれた。ほうきの使い方は、1年生の時の〇〇先生が、クラスのみんなに教えてくれた。ほうきは、左右対称ではない。うまく説明できないが、ほうきに向かって長い方と短い方があるのだ。短い方がいつも自分側にあるようにすると、ほうきの辺は、ぴったりと地面につく。そうすれば、ほうきもこれにいいし、しっかりとけける。私のペアの1年生は、担任の先生に教えてもらったかな。もし、まだだったとしたら、私が教えてあげようと思う。

復習方法の4つのポイント

- ① 必ず、教科書やノートなどを見て行う。
- ② ノート1ページで、その日に習ったことをまとめる。技能教科は省略してもよい。
- ③ 1つの教科は、5行～6行程度。
- ④ 無理をせず、20分程度でする。

約15分間の復習方法の指導

- 「自学ノートの新しいページを出しましょう。」
- 「一番上の行に、日付、始めた時刻を書きましょう。」
- 「今日学習した教科を5行～6行おきに書きましょう。」
- 「今日学習した各教科の大事なと思うことを5行程度でまとめてみましょう。」
- 「最初の1教科分ができれば、持ってきてきましょう。」(ノートに丸をつけ、ほめる)
- 「続きは、家でやってきましょう。」
- 「学習が終わったら、終えた時刻を書いておきましょう。」

復習のレベルについて ……教師の板書が大きく左右する……

- 〈ステップ1〉 その日のノートを視写するだけ。
 - 〈ステップ2〉 学習したことを自分なりに整理し、まとめる。
 - 〈ステップ3〉 疑問に思ったこと、さらに深めたいことを調べ、まとめる。
- ※上記の視点で家庭学習ノートを評価することもできる。

日記のすすめ

言語力や表現力を育むためには、日記が効果的である。日記の指導については、他ページの「学びの工夫」を参考としたい。

学びの工夫

中・高学年

1 日記メニュー例

- ①なりきり日記（犬、時計、おじいちゃん、好きなものになりきって書く）
- ②夢日記（昨日見た夢でも将来の夢でもいい。夢について書く）
- ③ベストワン授業日記（今日の一番よかった授業の日記）
- ④なるほど日記（生活の中でなるほどと思ったことを日記に）
- ⑤創作日記（自分で考えて物語を書く）
- ⑥うれしいこと日記（今うれしいことを日記に書く）
- ⑦困っていること日記（今困っていることを日記に書く）
- ⑧明日日記（今日のことでなく明日のことを予想して書く）
- ⑨10年後日記（自分の10年後を想像して書く）
- ⑩朝起きたら〇〇日記（例えば、女の子、毛虫、イチロー、アイドルなど）
- ⑪読書日記（最近読んだ本について書く）
- ⑫家族日記（家族一人一人をくわしく書いて紹介する）
- ⑬旅行日記（旅行に行ったことをくわしく日記に書く）
- ⑭ひみつ日記（他人に言えないひみつを書く）
- ⑮お願い日記（先生、家族、総理大臣にお願いしたいことを書く）
- ⑯もしも日記（もしも願いを3つかなえてもらえるなら）
（もしも宝くじで1億円当たったら）
（もしも透明人間になったら）

☆☆☆ 日記の内容に困ったら、上のメニューから選んで書こう ☆☆☆

2 日記は書き出しから教えよ

- | | |
|--------|--|
| パターン1 | 「会話」から始める
・「どうした。元気がないね。」先生が声をかけてきた。 |
| パターン2 | 「音」から始める
・「キーンコーンカーンコーン」授業始まりのチャイムが鳴った。 |
| パターン3 | 「思ったこと」から始める
・「うわあ、しまった。教科書忘れた。」と気づいた時はもう遅かった。 |
| パターン4 | 「時間」から始める
・6月5日の昼休みのことだった。 |
| パターン5 | 「していること・動作」から始める
・勉強をしていると、どこからともなく一匹のハチが飛んできた。 |
| パターン6 | 「場所」から始める
・運動場を見ると、圭太君と智樹君が遊んでいた。 |
| パターン7 | 「様子」から始める
・ぐったりと疲れて、僕の足は動かなくなってしまった。 |
| パターン8 | 「回想シーン」から始める
・あれは、4月のはだ寒い朝のことでした。いつものように・・・ |
| パターン9 | 「結末」から始める
・白が勝った。その瞬間、僕は思いきり飛び上がった。 |
| パターン10 | 「問いかけ」から始める
・1本の鉛筆がどのようにしてできるか知っていますか。 |
| 禁止事項1 | 「今日」「昨日」から書き出さない。 |
| 禁止事項2 | 「ぼく」「私」から書き出さない。 |

中学校1・2年生

…

計画的・継続的な学びを進める。

中学校1・2年生
こんな時期です

学習時間のめやす

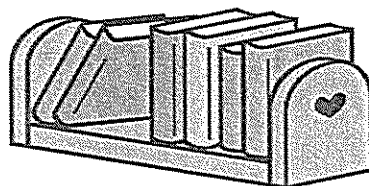
70～80分

「育ち」や「学び」の特徴

いわゆる「思春期」（大人への入り口）といわれる時期です。

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族に依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に反発的になります。また、仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識し、人と比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすためには、部活動との両立が大切です。

家庭学習の ポイント3か条



1 復習に重点を！予習で工夫を！

その日のうちに、教科書やノート、プリントを使って学習のポイントを整理し、思い出すようにすることは、学習の定着に有効です。

「継続」が「習慣」となり、大きな力となります。

また、明日の授業内容について、あらかじめ教科書を読んだり、調べたりしておくことで、授業内容が理解しやすくなり、自信につながります。

2 家庭生活の見直しを！～生活にリズムを～

部活動や学校行事、学習との両立で、忙しい中学生生活となります。「早起き早寝」「朝食をとる」「テレビやゲームの時間を決める」「学習する時間を決める」など、生活のリズムをしっかりとつくるのが大切です。

中学1・2年の努力が、将来の進路に大きく影響するといっても過言ではありません。

3 「急がば回れ」の気持ちで！

問題に取り組んでいてわからない時は、わかるところまで戻ってやり直すとともに、間違ったところは、必ず見直すことが大切です。

先生に遠慮することなく相談することをおすすめします。

中学校3年生

自分の目標を明確に持たせる。

中学校3年生
こんな時期です

学習時間のめやす

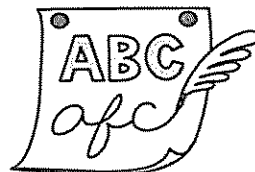
100分～

「育ち」や「学び」の特徴

まさに、人生の節目の時期です。

- 自らの進学や就職などの進路決定をする時が近づいてきます。
 - 「やらなくては」という思いと、思うようにならない自分に苛立ちを覚えることがあります。
 - 気持ちが不安定になり、大人がかける言葉に敏感になり、ときには反抗することがあります。
- 進路に関する情報が不足していると、いっそう不安が募ります。
- 本人も保護者も、学校（先生）などから正しい進路情報を得ましょう。
 - 正しい進路情報をもとにして、家族で進路についてよく話し合しましょう。
 - 将来を見すえた目標をもつことが、本人のやる気にもつながります。

家庭学習の ポイント4か案



1 長期的に見た学習を！

定期テストや教科の小テストなど、いつ・何があるかをカレンダーに書き込み、テスト範囲とテスト日までの日数を考えて、計画的に学習を進めることが大切です。

2 毎日、計画的な学習を！

毎日の予習・復習を進めるとともに、1・2年生の学習内容も振り返る必要があります。問題集などのページ数から、1日に学習する時間や量、様々な課題とのバランスを考えて取り組めるとよいです。

3 夏休みはこんなことを！

1・2年生までの総復習に集中して取り組む絶好の機会です。部活動を引退したら、新たな目標に向かって気持ちを切り替え、学習に取り組めるとよいです。

冬休みにはこんなことを！

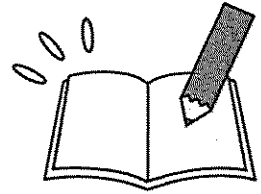
進路希望が明確になります。進路を見すえてラストスパートです。出題傾向を調べ、進路希望にあった問題集などに挑戦するとよいです。

4 健康維持も実力のうち！

睡眠や食事をしっかりととり、体調管理に気をつけましょう。健康のためには適度な運動も大切です。

教師用家庭学習指導の手引き その1

<まずはここから・・・基礎編>



生活時間の振り返りをさせましょう！

○どの時間帯に、どのくらい学習する、という目安がないと、なかなか家庭学習の定着には至りません。生活パターンを見直し、家庭学習をする時間をどこに取るのか、見通しを持たせましょう。また、生徒個々の生活時間帯について、学級担任が把握することも、的確なアドバイスのためには必要です。

家庭学習用のノートを用意させましょう！

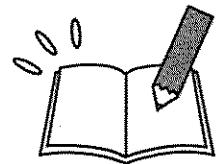
○ノートを作り、書くことで、更に質の高い定着につながることを体験させましょう。日付や実施時間、学習項目、ページなどの見出しをつけてノートづくりをすることも、合わせて指導できると良いと思います。

ノートは必ずチェックをしましょう！

- 事前に評価基準を示しておく、生徒は意識して取り組みます。スタンプやシールは評価によって種類を分ける、また、コメントをつけて褒めたりアドバイスすると更に意欲が高まります。個々に応じたきめ細やかな指導が、生徒の粘り強さを育て、質を向上させ、家庭の理解につながります。
- 上手なノートづくりのできている生徒のものをお手本にし、紹介することで、良いものを共有できます。最も良い手本になるのは、授業の板書です。

教師用家庭学習指導の手引き その2

＜更に高めるために・・・発展編＞



学習相談を行いましょう！

○時間をかけている割に、なかなか学習成果が上げられない、という生徒には、必ず理由があります。また、家庭で取り組むべき学習課題も、個人によって異なります。学期に1回程度行っている教育相談を生かして、生徒の学習習慣に結びつくアドバイスをすると、更に効果的です。

小中連携のとりくみの一つにしましょう！

○目標時間、ノートの使い方、家庭学習の進め方など、時間をかけて積み上げてきた習慣は、良い経験として生徒の中に残っています。小学校でのとりくみを知り、それを引き継ぐ、更に発展させる指導をしていきましょう。

予習を家庭学習に取り入れてみましょう！

○集中して授業に参加し、効果的な復習をするためには、予習が必要です。1教科あたり5分～10分程度、授業の前に教科書を読み、わからないところ、大切だと思うところにアンダーラインを引きます。そうすれば、授業で聞くべき事柄が明確になり、興味を持って授業に臨むことができます。また、復習しなければならないこともはっきりするので、より定着につながる学習になります。

◎教師の働きかけが、生徒の学習習慣を身につける一助となります。

それぞれの項目をチェックし、指導を振り返る参考にしてください。

生活のリズムを確認しよう

名前 _____

1 生活のリズムについて

〈起床の時間〉 時 分 〈朝食の時間〉 時 分

〈夕食の時間〉 時 分 〈就寝の時間〉 時 分

〈塾(家庭教師・習い事・スポーツクラブ)など〉

曜日 時 分 ~ 時 分 ()

曜日 時 分 ~ 時 分 ()

曜日 時 分 ~ 時 分 ()

2 生活パターン

 勉強
  テレビ、ゲーム
  自由時間
  その他

〈平日〉

○Aパターン(基本的なパターン)

4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00

○Bパターン(_____ があるパターン)

4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00

〈休日〉

○Aパターン(基本的なパターン)

8:00	10:00	12:00	2:00	4:00	6:00	8:00	10:00	12:00

○Bパターン(_____ があるパターン)

8:00	10:00	12:00	2:00	4:00	6:00	8:00	10:00	12:00

学びの工夫

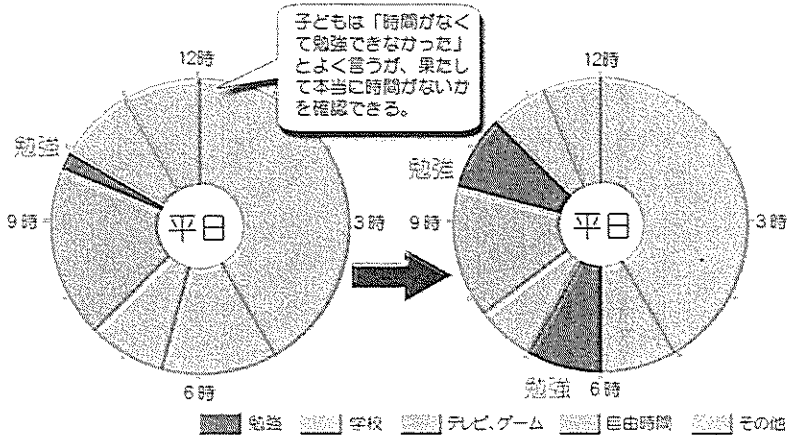
中学生

時間の使い方を確認させよう！！

「どの時間帯に」「どのくらい」の目安がないと、なかなかスタートできません。

生活パターンを見直し、家庭学習をする時間をどこにとるかの見通しを持たせましょう。

また、学級担任が、個々の生徒の活動時間について理解することも、的確なアドバイスのためには必要です。

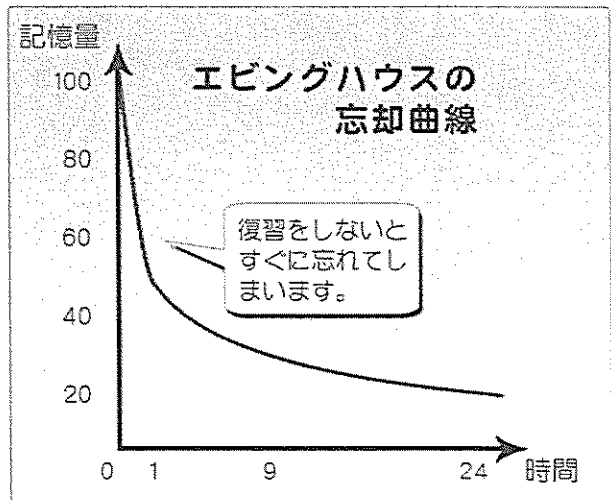


※同様に「平日のBパターン」や「休日」などいくつかの場合に応じて作成すると、より明確になります。

反復学習でしっかり記憶させよう！！

ドイツの心理学者エビングハウス氏の実験によると記憶は20分後におよそ42%を忘れ、1時間後でおよそ56%、9時間後でおよそ64%を忘れ、その後少しゆるやかになり6日後にはおよそ76%を忘れてしまうそうです。完璧に覚えたつもりでも、その後に復習しなければ6日後には24%しか残っていないということになります。

しかし、学習し覚えたことを、忘れる前に繰り返し反復することで、忘れる確率は大幅に低くなることも証明されています。昨日した勉強内容は、今日の勉強を始める前に復習し、これを1週間、1ヶ月前に勉強した内容も合わせて復習すると効果的です。



①学校で習ったことは、その日のうちに復習させよう！

試験の前にまとめて復習するのでは、せっかく勉強したことのほとんどを忘れているのですから、はじめから勉強をやり直すのと同じ事になってしまいます。毎日の復習を心がけたいものです。

②2日続けて復習させよう！

記憶保持曲線から2日間(48時間)覚えていることは、ほぼ完全な記憶になっていることが分かります。だから、たとえば英単語を覚えたら、次の日にもう一度その単語を復習して覚えるようにさせましょう。1日で終わるか、2日かけるかで、記憶の量はぐっと違ってきます。

中学生

1 教科5分でできる「ワンポイント復習」
～ 見開き1ページ復習のすすめ ～

ノート例

6月30日 (水) 6:00~7:00

1. 時間 國語

主語 その文の中の主人公 は が も さえ だって こも まだ しが
 香^主ちゃんが/笑った 私の/家^主に/友だちが/来た
 述語 結局○○だ。一番言いたいところ
 冷たい/荷^主が/降^述る 主述の関係 → 文の骨組み

2時間目 数学

$$\begin{aligned}
 & \text{カッコをはずして同率にする。} \\
 & 3x + (5x - 2) \\
 & = 3x + 5x - 2 \\
 & = 8x - 2
 \end{aligned}
 \qquad
 \begin{aligned}
 & 3x - (5x - 2) \\
 & = 3x - 5x + 2 \\
 & = -2x + 2
 \end{aligned}$$

カッコの前がーのときは、カッコの
 々の各項の符号をかえて計算する。

3時開門 英語

肯定文 「主語+be動詞」の順に並べる。
I am Shin. (わたしは僕です)
否定文 be動詞のあとにnotを置く。
I am not Shin. (わたしは僕ではありません)
疑問文 主語の前にbe動詞を置く。
Are you Shin? (あなたは僕ですか)

4時題目 体育

授業の感想文や授業のポイント等

5時間目 理科

名前が知らない植物があったら・・・

花の形・花の色	○科	私たちの同世代間にすると呼べやすい。
花びらの枚数・におい	キク科 → ヒマワリ・タンポポ・キク・・・・	
	マメ科 → エダマメ・ソラマメ・インゲンマメ・・・・	
	イネ科 → ススキ・ネコジャラシ・ムギ・・・・	
	バラ科 → リンゴ・サクランボ・ウメ・アズミ・・・・	

6時間目 社会

日本の地域区分		
東日本に属する	↑	生涯が文化のちがひ、
太平洋側に日本海側	↑	気候が自然のちがひ、
フカシ・カササ	↑	経済・産業・山川・地形・気候

このスペースの活用例

- ① 日記
② 授業内容をまとめながら、さらに自分で調べたこと
③ 予習 等
が考えられる。

復習方法の4つのポイント

- ① 必ず、教科書やノートなどを見て行う。
- ② ノート1ページで、その日に習ったことをまとめる。技能教科は省略してもよい。
- ③ 1つの教科は、5行～6行程度。
- ④ 無理をせず、20分程度でする。

約15分間の復習方法の指導

「自習ノートの新しいページを出します。」
「一番上の行に、日付、始めた時刻を書きます。」
「今日学習した教科を5行～6行おきに書きます。」
「今日学習した各教科の大事ななと思うことを5行程度でまとめてみましょう。」
「最初の1教科分ができれば、持ってきます。」（ノートに丸をつけ、ほめる）
「続きは、家でやります。」
「学習が終わったら、終えた時刻を書いておきます。」

復習のレベルについて・・・教師の板書が大きく左右する・・・

- 〈ステップ1〉 その日のノートを試写するだけ。
 〈ステップ2〉 学習したことを自分なりに整理し、まとめる。
 〈ステップ3〉 疑問に思ったこと、さらに深めたいことを調べ、まとめる。
 ※上記の視点で家庭学習ノートを評価することもできる。

日記のすすめ

言語力や表現力を育むためには、日記が効果的である。日記の指導については、他ページの「学びの工夫」を参考としたい。